

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教員の教育・研究活動に対する客観的な評価方法の構築の検討を開始する。	→教員の教育・研究活動に対する客観的な評価方法の構築を検討するための会議開催数。	C	C	C	C	
2. 研究活動を活性化する。	→年度ごとの教育業績報告書、著書・学術論文の数、論文掲載誌名、学会報告の数、学会や社会活動での受賞の有無。	C	C	C	C	
3. FD活動を強化・充実する。	→FD研究会の実施回数、参加人数、報告数の増大。	C	C	C	B	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	大学院科目については学生による授業評価を行っており、研究活動については業績研究データベースの公表、周知により、レビューされている。商学部の人事委員会が、人事における教員の研究業績のカウント方法を規定しており、商学研究科の人事においても準用されている。商学研究科独自の研究活動の評価方法はない。
目標2	研究活動は、『商学論究』による研究業績発表および業績研究データベースの公表、周知により、レビューされている。また、商学部と商学研究科が一体となって教授研究会を定期的に開催している。教授研究会では、専任教員が日頃の研究成果の報告・討論を行い、研究活動を活性化させる取り組みを行っている。
目標3	2012年度から大学院FD委員会を設置した。2012年度は商学部と商学研究科が共同でFD委員会およびFD教授研究会を開催した。2012年度は3回のFD教授研究会が開催され、ほぼ全員の教員が参加し、教員間で情報を共有するなど、教育の質を上げる取り組みを行っている。また、大学院FD委員会は、研究科委員長からの諮問に基づき、商学研究科のカリキュラムとシラバスについて定期的な検証を行った。
備考	